

雲戀へば地底の蟻があふれいづ

藤田湘子

湘子追悼特集では、代表句としてこの句を選んだ俳人はいなかった。上五の「雲戀へば」が甘すぎるからだろうか。鷹の会員にも忘れられているかもしれない。

掲句は、三十代に作句され、第二句集『雲の流域』に収録されている。しかし、「雲の流域」と入った句はない。師の水原秋櫻子の序文では、「『雲の流域』という題名は、著者の創造語だそうである。（中略）時代に即した方向もあつたかと肯き得る表現である」と紹介。

遺句集『てんてん』には、「師の名こそ生涯の糧秋の雲」などもある。それでも雲を詠んだ句がとりわけ多かったわけでもない。さてさて、地上に這い出した働き蟻たちは、いったいどんな世界を夢見ていたのだろうか。

1958年（昭和33年）第二句集『雲の流域』 鑑賞・轍郁摩